

2010年3月期 連結決算について

2010年3月期(2009年度)連結決算は、前期比「減収増益」の決算
 2011年3月期(2010年度)連結業績見通しは、「増収増益」の見通し

1. 経営環境の概要(航空取扱量の実績と見通し)

単位:未満四捨五入

区 分	2008年度	2009年度	増減		2010年度	増減	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
航空機発着回数(万回)	19.1	18.7	0.4	97.8	20.7	2.0	110.8
航空旅客数(万人)	3,265	3,285	20	100.6	3,309	24	100.7
航空貨物量(万ト)	188	196	8	104.3	206	9	104.8
給油量(万kl)	521	478	43	91.8	514	36	107.4

(1)2010年3月期(2009年度)の対前期実績【増減】

- 航空機発着回数は、貨物便を中心とした国際線の減便により減少。(国内線は増便により、発着回数は過去最高を記録:約1.5万回)
- 航空旅客数は、上期に景気低迷や新型インフルエンザの影響を受けたものの、8月以降持ち直し前期並。
- 航空貨物量は、上期に景気低迷や円高により輸出を中心に減少したものの、下期以降持ち直し増加。
- 給油量は、減便や就航機材の小型化による平均給油量の低下により減少。

(2)2011年3月期(2010年度)の見通し【増減】

- 航空機発着回数は、空港容量拡大に伴う新規就航・増便により増加。
- 航空旅客数は、景気が回復基調にあることから増加。
- 航空貨物量は、輸出を中心に回復基調にあることから増加。
- 給油量は、就航機材小型化により平均給油量は低下傾向にあるものの、発着回数増加により増加。

2. 連結決算の概要

単位:億円(単位未満切捨て)

区 分	2008年度	2009年度	増減		2010年度	増減	
	実績	実績	金額	%	見通し	金額	%
	A	B	B-A	B/Ax100	C	C-B	C/Bx100
営業収益	1,894	1,798	96	94.9	1,863	64	103.6
営業利益	234	213	21	91.0	256	42	120.0
経常利益	141	125	16	88.4	164	38	130.9
当期純利益	59	60	0.9	101.6	81	20	133.8

連結の範囲 連結子会社 21社、持分法適用関連会社 1社(前期末同数)

(決算概要詳細は裏面)

(1) 経営成績の概要

**営業収益は 1,798 億円(前期比 96 億円の減収)、営業利益は 213 億円(同 21 億円の減益)、
経常利益は 125 億円(同 16 億円の減益)、当期純利益は 60 億円(同 9 千万円の増益)、
営業収益と当期純利益を対前期と比較すると「減収増益」の決算**

- **営業収益: 1,798 億円(前期比 96 億円の減収)**
 - 空港運営事業は、航空会社の減便や就航機材の小型化に加え、国際線着陸料を引き下げたことにより空港使用料収入が減少、給油施設使用料収入も同様に減便や就航機材の小型化の影響で減少した。一方、旅客施設使用料収入は、旅客関連料金の改定により増加した。空港運営事業全体としては、空港使用料収入の減少が大きく影響し減収となった。
 - リテール事業は、上期の航空旅客数の減少や円高、景気後退による消費意欲の低下に伴い、子会社直営店舗の物販飲食収入、テナントからの構内営業料収入ともに減少した。
 - 施設貸付事業は、前年度中に航空会社の貨物上屋の返還があったことによる減収の通年化や航空会社の事務室返還の影響で土地建物等貸付料収入が減少した。
 - 鉄道事業収入は、2 億円でほぼ前期並み。
- **営業利益: 213 億円(同 21 億円の減益)**
 - 修繕費や水道光熱費の減に加え、グループを挙げた運営経費全般にわたる経費削減により、営業費用を抑制した結果、営業利益は前期比 21 億円の減益にとどめた。
- **経常利益: 125 億円(同 16 億円の減益)**
 - 金利低下に伴う支払利息の減少などにより、経常利益は前期比 16 億円の減益となった。
- **当期純利益: 60 億円(同 9 千万円の増益)**
 - 除却損等の特別損失が前期比で大幅に減少した為、当期純利益は前期比 9 千万円の増益となった。
 - なお、2009 年 11 月 11 日発表の業績予想(当期純利益 30 億円)と比較すると、新型インフルエンザの流行も予想を下回る形で終息し、下期航空取扱量も回復基調となったこと、また、更なる経費削減に努めたことから当期純利益は予想を+30 億円上回る結果となった。

(2) 財政状態の概要

- 資産合計は、B 滑走路北伸関連工事や成田新高速鉄道整備工事等を実施した結果、前期末比 242 億円増加の 1 兆 361 億円。
- 負債合計は、子会社の成田高速鉄道アクセス(株)が新規の銀行借入を実施した結果、前期末比 204 億円増加の 8,086 億円。当期末の有利子長期債務残高は、前期末比 171 億円増加の 5,889 億円。平均金利は前期末比 0.06 ポイント低下し 1.51%。
- 純資産合計は、前期末比 37 億円増加し 2,274 億円。

(3) キャッシュ・フローの状況

- 営業CFは、収益が落ち込む中で経費削減に努め、ほぼ前期並の税前利益を確保したことから 590 億円のキャッシュイン(成田新高速鉄道にかかる負担金支出の減少等により、前期比 102 億円の増加)
- 投資CFは、B 滑走路関連工事、成田新高速鉄道整備工事等により、610 億円のキャッシュアウト(前期比 28 億円の増加)
- フリーCFは、19 億円となった(前期比 74 億円の増加)

(4) 2011 年 3 月期の連結業績見通し

**営業収益は 1,863 億円(前期比 64 億円の増)、営業利益は 256 億円(同 42 億円の増)、
経常利益は 164 億円(同 38 億円の増)、当期純利益は 81 億円(同 20 億円の増)の「増収増益」**

- 営業収益は、空港容量拡大に伴う発着回数の増加等により増収。
- 営業利益は、営業収益の増収に加え、運営経費全般にわたる経費削減を図ることにより増益。
- 当期純利益は、営業利益同様に、営業収益の増収と経費削減努力により増益の見通し。